

大垣市立青墓小学校4年2組の総合的な学習の時間において、木曾川上流河川事務所が作成した防災教育教材(学習指導・発問計画、板書計画、その他の教材(自然災害の映像、自然災害に関する資料、浸水深等身大パネル、ワークシート等))を用いた授業が実施されました。

- 日時：令和3年1月20日(水) 10:40~11:25 (45分)
- 場所：大垣市立青墓小学校
- 対象：4年2組(30名)
- 担当：青墓小学校 矢橋先生
- 教材：発問計画(教員用)
 - ：板書計画(教員用)
 - ：提示資料(岐阜県の自然災害の年表や位置図、青墓小学校版ハザードマップ、浸水深等身大パネル、「9.12豪雨災害」時の被災写真)
 - ：映像資料(「豪雨災害の報告」元安八町長 丹羽正治氏の講話)
 - ：ワークシート(学習でわかったこと、考えたことを記入するプリント)

- 【授業の内容(青墓小学校4年2組の例)】
- テーマ 1. 過去の自然災害※
- ①導入：岐阜県の主な自然災害の年表と位置図を見て、自然災害を意識する。
 - ②展開前段：青墓小学校版ハザードマップを提示し、児童一人々が地図上で自宅の場所を確認して、自宅の状況を確認する。
 - ③展開後段：9.12豪雨災害の体験者の話(映像資料)を聞いて、水害の恐ろしさ・大変さを知る。
 - ④終末：体験者の話を聞き、被災写真等を見て、感じたことを発表した後、ワークシートに授業を通して学んだこと・感想をまとめる。
- ※今回は4テーマある内の1つを授業で取り扱いました。

【木曾川上流河川事務所が提供した教材の例】

発問計画・学習教材

<p>1. 過去の自然災害</p> <p>本時のねらい(目標)：歴史や地理を通して、これまで様々な自然災害(社会発展に際しては起こって当然のこと)に気付くとともに、「自然災害」の被害者の惨状(デジタル映像)を鑑みながら水害の恐ろしさについて理解し、水害を自分事として認識する。</p> <p>※指導「問の...」は、手渡される児童の発達(見識)に応じた発問を提示する。</p>	<p>発問のポイント</p> <p>1. 自然災害を認識する。</p> <p>発問1 過去の自然災害の年表を見て、自然災害の発生を認識させる。</p> <p>発問2 過去の自然災害の発生を認識させる。</p> <p>発問3 過去の自然災害の発生を認識させる。</p> <p>発問4 過去の自然災害の発生を認識させる。</p>	<p>発問のポイント</p> <p>1. 過去の自然災害の発生を認識させる。</p> <p>発問2 過去の自然災害の発生を認識させる。</p> <p>発問3 過去の自然災害の発生を認識させる。</p> <p>発問4 過去の自然災害の発生を認識させる。</p>
--	--	---

ワークシート：過去の自然災害

ワークシートの例

わたしたちのハザードマップ 青墓小学校版

発問計画の例

板書計画：1時限目「過去の自然災害」

9.12豪雨災害 資料5

岐阜市内の被害写真

板書計画の例

提示資料の例

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の授業での活用例】



授業の導入部で、岐阜県の自然災害の年表や位置図を使って、自然災害について意識させる



一人一人がハザードマップ上で自宅の場所を探し、水害が起きた場合に浸水する深さを確認



「9.12豪雨災害」体験者の話(映像資料)を聞いて、水害の恐ろしさ・大変さを知る



被災写真や資料を見て、わかったことや感じたことを発表



授業を通して、わかったことや自分で考えたことをワークシートに記入

～みんなの声～

- ・「9.12豪雨災害」体験者の話を聞いて、目の前で堤防が決壊するところを見たというのは怖かったらうなと思いました。
- ・水害は、長い堤防の一部が切ただけでも、町全体が浸水することに驚きました。
- ・「9.12豪雨災害」のようなことは二度と起きてほしくないと思いました。
- ・今日の授業を通して、たくさんのお話を学びました。当時の様子や経験した人のお話の映像を見て、怖くて大変だったらうなと思いました。

大垣市立青墓小学校4年1組の総合的な学習の時間において、木曾川上流河川事務所が作成した防災教育教材(発問計画・学習教材、板書計画、その他の教材(河川施設や行政の取組に関する資料、ワークシート)等)を用いた授業が実施されました。

- 日時：令和3年1月22日(金) 10:40~11:25 (45分)
- 場所：大垣市立青墓小学校
- 対象：4年1組(30名)
- 担当：青墓小学校 中島先生
- 教材：発問計画(教員用)
：板書計画(教員用)
：提示資料
(河川施設や行政の取組に関する写真・名称・内容を結び付けるクイズや感想を記入するプリント)
：ワークシート
(河川施設の例、行政の誰が施設を作ったり、どのような取組をしているかを示す「行政カード」等)

【授業の内容(青墓小学校4年1組の例)】

●テーマ 2. 災害を防ぐ行政の取り組み(公助について)※

- ①導入：立地場所、写真などから何のための施設かを考えながら、河川施設について学ぶ。
- ②展開前段：国、県、町、水防団などの行政機関のうち誰が、どの河川施設を作っているのかを考え、ハード対策とソフト対策の違いを知る。
- ③展開後段：ソフト対策について、それぞれの取り組みをどの行政機関が行っているのかクイズ形式で考える。
- ④終末：本授業を通して学んできた災害を防ぐ行政の取り組みのことを意味する「公助」という言葉を知る。
※今回は4テーマある内の1つを授業で取り扱いました。

【木曾川上流河川事務所が提供した教材の例】

発問計画・学習教材

2. 災害を防ぐ行政の取組(公助について)

本日のために(目的) 本県からわたる上流の河川を生活を守るために、市や県、国が様々な工夫(ハード・ソフト対策)をしていることを理解し、各取組の目的を知る。

※発問計画の②は、本県される位置の授業(授業に伝えたい発言)を示す。

導入(5分) 1. 河川施設への関心を引き出す。
発問 水害から命や財産を守るために、この地域では、どんな取り組み「工夫」がなされているでしょうか。
(資料1~3の画像で提示する)
発問 これは何のための施設でしょうか?
発展 発展1? 発展2? など

発問 2. 施設の種類を知る。
【資料1】施設のある位置(河川、水路、身近な町や小学校との位置関係)
【資料2】施設の一面を拡大した写真(あるいは遠方から見た写真)
【資料3】施設全体を見せる写真
【資料4】写真を発表するスライド

【ワークシート1】施設写真、施設名、目的をつなぐ
【ワークシート2】施設写真(河川ハトロール・排水設備写真、パースマップ)、施設名、目的をつなぐ
【ワークシート3】施設写真と行政カードを結びつける

発問計画の例

ワークシート1. 災害を防ぐ行政の施設

施設名

- ・ 堤防
- ・ 河川防災ステーション
- ・ 水防団
- ・ 排水設備・ポンプ室

目的

- ・ 雨がたくさん降って、水が川にたまって川が溢れるのを防ぐ。
- ・ 河川防災ステーションで、水害の危険を知らせる。水害が起きたときに、水害の被害が少ないように知らせる。
- ・ 水害を防ぐために、川の下に埋め込まれている。川の水位が上がると、水が溢れるのを防ぐ。
- ・ 水害を防ぐために必要なブロックなどの材料を運搬して、河川防災ステーションなどに保管されています。

ワークシートの例

これは何のための施設でしょうか? 資料3

答え

ヒント① 水害を防ぐための活動に必要な資材(ブロックなど)を備蓄しておくための施設です。
ヒント② 水害を防ぐための活動に必要な資材(ブロックなど)を備蓄しておくための施設です。
普及は地域のレクリエーションなどにも利用されています。

ブロック

倉庫

河川ハトロール

排水設備・ポンプ室

それぞれの取り組みは誰が行っているのでしょうか?

河川ハトロール

排水設備・ポンプ室

水防活動

まとめ
・水害からまちを守るために、市や県、国が様々な対策「公助」を行っている。

提示資料の例

板書計画: 2時限目「災害を防ぐ行政の取り組み(公助について)」

今日の課題: 水害に備えて、誰がどのような取り組みがされているだろうか。

水害を防ぐための施設

誰の取り組みだろうか?

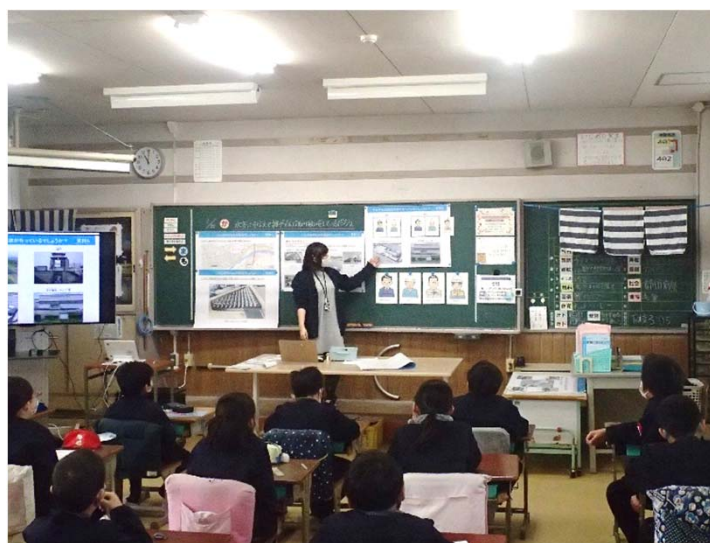
まとめ
・水害からまちを守るために、市や県、国が様々な対策「公助」を行っている。

板書計画の例

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の授業での活用例】



授業の導入部で、何のための施設か考えながら、様々な河川施設について学習



行政カードにより、誰がどの河川施設を作っているのか整理



水害対策には、ハード対策とソフト対策があることを学び、両者の違いを把握



河川施設の写真・名称・内容を結び付けるクイズに挑戦



クイズの回答を隣の人と見せ合い結果を確認する

～みんなの声～

- 国土交通省の人は、いろいろやらないといけなくて大変だと思いました。
- 通学路の途中で、樋門を見たことがありました。
- 河川防災ステーションは、水防団が作っているのだと思っていましたが、国土交通省が作っていると知りました。
- 河川パトロールや排水機場・ポンプ場操作を国土交通省、県、市の人が行っていることを知りました。

大垣市立青墓小学校4年2組の総合的な学習の時間において、木曾川上流河川事務所が作成した防災教育教材(学習指導・発問計画、板書計画、その他の教材(水防設備や備品に関する資料、水害に備える地域の取組(共助)に関する資料、ワークシート等))を用いた授業が実施されました。

- 日時：令和3年1月27日(水) 10:40~11:25 (45分)
- 場所：大垣市立青墓小学校
- 対象：4年2組(30名)
- 担当：青墓小学校 矢橋先生
- 教材：発問計画(教員用)
：板書計画(教員用)
：提示資料
(水防設備の例、水防団の活動の様子、水害に備えるための訓練の様子、水防団の思い等)
：ワークシート
(地域での水害への備えや水防団の取組、活動への思いを写真と絵で結びつけ感想を記入するプリント)

- 【授業の内容(青墓小学校4年2組の例)】
- テーマ 3. 災害を防ぐ地域の取組み(共助について)※
- ①導入：水防倉庫や土嚢などの備品の写真と活用例から、水防設備と水防活動について関心を持つ。
 - ②展開前段：普段は別の仕事を持っている地域の大人が、水防団として活動していること、また活動の具体的な内容を知る。
 - ③展開後段：映像資料を視聴して、水防団の人の生の声を聴き、活動の大変さや活動にあたっての思いを感じ取る
 - ④終末：災害を防ぐ地域の取組み(共助)について学んでみて、わかったことや思ったことをワークシートにまとめて発表
- ※今回は4テーマある内の1つを授業で取り扱いました。

【木曾川上流河川事務所が提供した教材の例】

発問計画・学習教材

3. 災害を防ぐ地域の取組(共助について)

本時のねらい(目標) 水害から自分たちの命は自分たちで守るという思いを持って、地域の取組みと関わりながら地域の大人が活動していること、水害の準備や必要性について理解する。

学習内容 (10分)

1. 水防設備への関心を引き出す。(写真1を提示する)
2. このような災害が無くならないことを願っている人はいくら多いのでしょうか?
3. 「水防団活動が自分たちの命を守る手がかりになるように地域の大人と協力して活動すること」を話し合う。

発問 (10分)

この「土のう」といふ言葉は知っているでしょうか?

「水防団活動が自分たちの命を守る手がかりになるように地域の大人と協力して活動すること」を話し合う。

資料1 水防設備の例、水防団の活動の様子、水害に備えるための訓練の様子、水防団の思い等

資料2 写真の備品の例、使用方法の例

資料3 使用法の実例

ワークシート

ワークシート「災害を防ぐ地域の取組」

地域の大人が協力して、水害に備える取組み「共助」

地域の大人が協力して、水害に備える取組み「共助」

地域の大人が協力して、水害に備える取組み「共助」

発問計画の例

板書計画「3時間目「災害を防ぐ地域の取組み(共助について)」

今日の課題：水害に備えて、地域の大人はどのような取組みをしているのだろう。

水害を防ぐための備品(水防倉庫)

地域の大人はどのように協力して取組みをしているのだろうか?

水防倉庫の活用

水防団の活動

水防団の活動

水防団の活動

まとめ

水防団の人たちは、自分達の町を自分達で守りたいという思いをもち、訓練や水害のときの活動「共助」を行っている。

板書計画の例

ワークシート「災害を防ぐ地域の取組」

地域の大人が協力して、水害に備える取組み「共助」

地域の大人が協力して、水害に備える取組み「共助」

地域の大人が協力して、水害に備える取組み「共助」

地域の大人が協力して、水害に備える取組み「共助」

地域の大人が協力して、水害に備える取組み「共助」

ワークシートの例

資料1

水害に備えて、土のうや防水シートなどが様々なものが備えてあります

水防倉庫の活用

水防団の活動の様子

水防団の活動の様子

水防団の活動の様子

資料3

水防倉庫の備品の活用

土のうを使った水防工法

水害が発生する際には、土のうをたくさん使って、堤防から水があふれりするのを防ぎます。またシートの固定などにも利用します。

水防団の活動の様子

水防団の活動の様子

水防団の活動の様子

提示資料の例

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の授業での活用例】



水防倉庫やその中の備品の写真などにより地域の防災設備について知る



訓練や陸開の操作・点検など水防団の具体的な活動内容について知る



水防団の人の話の映像資料を視聴し、活動にあたっての大変さと想いを感じ取る



水防団の活動やその大変さを知って、感じたことや思ったことを発表



災害を防ぐ地域の取り組み(共助)について、わかったこと、思ったことをワークシートに記入

～みんなの声～

- 水防団の人達は普段は別の仕事をしながら、いざとなったら住民を守るということが分かりました。
- 水防団の人は自分の命も危ない状況なのに、他の人の命を助けようとするのがすごいと思いました。
- 水防団の人たちに「ありがとう」と思いました。
- 今日の授業を通して、一人にできることは多くないけれど、一人一人が協力して助け合える地域を作りたいと思いました。

大垣市立青墓小学校4年1組の総合的な学習の時間において、木曾川上流河川事務所が作成した防災教育教材(発問計画・学習教材、板書計画、その他の教材(マイ・タイムラインの紹介映像、小学校版ハザードマップ、ワークシート)等)を用いた授業が実施されました。

- 日時：令和3年1月29日(金) 10:40~11:25 (45分)
- 場所：大垣市立青墓小学校
- 対象：4年1組(30名)
- 担当：青墓小学校 中島先生
- 教材：発問計画(教員用)
：板書計画(教員用)
：映像資料 (マイ・タイムライン紹介映像)
：提示資料 (警戒レベル、タイミングカード、キーワードカード等)
：ワークシート (小学校版ハザードマップ、マイ・タイムライン作成シート)

【授業の内容(青墓小学校4年1組の例)】
●テーマ 4. 私たちができること(自助について)※

- ①導入：マイ・タイムライン紹介映像を視聴して、水害に対して備えているかで、水害時のスムーズな避難を左右することを意識
- ②展開前段：タイミングカードを提示し、カードの示す警戒レベルについて整理。続いてキーワードカードを提示し、どのタイミングでどの行動を取るべきかを考える
- ③展開後段：自分たちが避難するときは、何が必要か考えながら自分なりのマイ・タイムラインを作成する
- ④終末：自分で自分を災害から守る取り組みを意味する「自助」という言葉を学び、授業全体を通しての感想を発表
※今回は4テーマある内の1つを授業で取り扱いました。

【木曾川上流河川事務所が提供した教材の例】

発問計画・学習教材
4. 私たちができること(自助について)
本時のねらい(自助) 水害に対して備えている状況と、準備していない状況の違いを比較する。
水害に手紙があることと避難し、避難の準備の有無を比べることで、自分自身で準備の必要性について考える。
※授業資料は、事前に学習教材の授業(授業に活用したい授業)を参照する。

発問計画の構成
【導入】マイ・タイムラインの重要性について説明する。
【展開前段】警戒レベルについて説明する。
【展開後段】自分自身で準備の必要性について考える。
【終末】自分で自分を災害から守る取り組みを意味する「自助」という言葉を学ぶ。

マイ・タイムラインをつくってみよう!!
自分の家族や自分自身、大切なものを、水害に備えておく。自分自身で準備の必要性について考える。

準備段階	警戒レベル	行動	準備
警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3	警戒レベル4

マイ・タイムライン作成シート
自分の家族や自分自身、大切なものを、水害に備えておく。自分自身で準備の必要性について考える。

板書計画 4時間目「わたたちができること(自助について)」
今日の課題：洪水から命を守るために、わたしたちに出ることはなんだろう
ハザードマップで危険箇所を知ろう 自分、どのようなことができたろう

まとめ
水害は地震とは違って突然くるのではなく、情報を確認して避難ができる。
事前の準備が自分や周りの人の命を助けることになる。
家に帰って、洪水が起りそうなときにどうするか、家族で話し合おう。

提示資料の例

- ひなん所、ルートを確認する
- 持ち物さげしげんに準備する
- 情報を確認する
- ひなん所に、ひなんする
- 高い土地や高い建物へにげる
- 低い土地へにげる
- 川のようなところに行く
- ひなん所の生活

板書計画の例

提示資料の例

【木曾川上流河川事務所が作成した教材の授業での活用例】



マイ・タイムライン紹介映像を視聴し、
水害に対する備えの大切さを意識



タイミングカード、キーワードカードを用い、
自分たちの行動とタイミングについて整理



学校の防災倉庫の中の備品を確認し、
自分たちの避難にも必要かどうか考える



タイミングカード・キーワードカードを参考に
しながら、マイ・タイムラインを作成



自分で自分を助ける“自助”という言葉を学び、
授業全体を通しての感想を発表

～みんなの声～

- 避難するときに必要な備品、やってはいけないことを学び、水害が起きた時に活かしたいと思いました。
- 情報確認をして避難することが大切だと分かりました。
- たくさんの方が「公助」や「共助」を
していても、災害は起きてしまうものなので、自分の命を守るために「自助」を
しなければならないと思いました。